

1 学校経営の基本理念

教育とは、子供を一人の人格をもった人として尊重し、認め励まししながら人格の形成を目指す営みである。本校に通う全ての児童に、自らの生き方を考え、自らの力で将来を切り拓くために必要な基礎学力、強い意志、たくましい体、自信を育てていく。本校では、一人一人の子供が自分らしく学び、成長していくことを大切にする。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に進めることで、多様な子供たちの学びを深めていく。また、児童も教職員も安心して過ごし、充実感をもって生活できるウェルビーイングの向上を目指す。

本校は「創立150年の伝統」と「教育活動をサポートする地域の実行力」を誇るコミュニティ・スクールである。歴史の中で培われてきた校風や実績を守り・育て・発展させながら、学校の教育目標を掲げる。

(1) 教育目標

人間尊重の精神を養い、常に自主的・創造的で、集団及び地域社会の一員としての自覚をもって地域社会と関わりながら、夢に向かい、志をもって、自らの道を拓くことができる児童の育成を目指す。そのため、「知・徳・体」の調和のとれた生きる基盤を培うことを目指し、学校の教育目標を次のように定め、全教育活動を通じてその実現に努める。

○心の豊かな子ども ◎進んで学ぶ子ども ○体をきたえる子ども

※上記の教育目標を達成するため、教育課程を編成し、学校運営協議会に承認、教育委員会に受理された。

(2) 目指す児童像 自立と協働～自分のよさを理解し、友達の良さも認める子～

○心の豊かな子ども 「徳」豊かな情操、礼儀と生活規律の育成

- ・自他を尊重し、思いやりの心をもって共に生きようとする子
- ・きまりを守り、自ら考え行動できる人間性豊かな子

◎進んで学ぶ子ども 「知」自ら学ぶ姿勢の確立

- ・自ら考え判断する力を伸ばし、自分の意思を表現する子
- ・自他の力を活用し、粘り強く取り組む子

○体をきたえる子ども 「体」強い心と体の育成

- ・明るく活発で、個性を伸ばそうとする子
- ・心と体の健康づくりに主体的に取り組み、たくましく生きる子

2 学校経営の基本方針

本校の教育活動は、中央教育審議会「論点整理(素案)」で示された「多様な子供たちの『深い学び』を確かなものに」という方向性を踏まえ、「主体的・対話的で深い学びの実現」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」を三位一体で推進する。杉並教育ビジョン2022「みんなのしあわせを創る杉並の教育」の具現化、「地域とともに、子供が輝く杉一小」として地域における学校の存在価値を示すことができるよう教育活動を展開する。

学校とは子供のためにある。学校は子供が認められ、今の自分に自信をもち、明日への希望とよりよい生き方を求めていく場所であってはならない。学校や学級に互いの違いを尊重した「受容・共感・肯定」などの開かれた雰囲気があふれることで、いきがいのある学校となる。杉並区最初の区立学校として150年の歴史を刻んできた。これまでの歩みを確かな礎に、VUCA の時代をたくましく生き抜く必要な力を身に付けられる学びの場としていく。

○目指す学校像 ～「笑顔」のあふれるコミュニティ・スクール～

- ・児童自らが学びを深め、明日の学校生活を楽しみにできる学校
「児童が通ってよかったと満足する学校」
- ・常に創意工夫がなされ、児童の資質や能力を伸ばす教育が展開される学校
「教職員が誇りをもち、達成感・充実感を味わえる学校」
- ・保護者・地域社会に開かれ、共に協力して児童の教育に携わる学校
「保護者・地域が誇りに思う学校」

○目指す教師像 ～一人一人の児童のよさを見出し、意欲と自信をもたせる教師～

- ・分かりやすい授業、達成感・満足感のある授業を目指し、実践する教師
- ・指導力の向上を旨とし、常に研究及び研修に努め、授業改善等に努力する教師
- ・家庭との連携を充実させ、児童理解に基づいた指導により、児童の成長を図ることのできる教師
- ・公私において高い倫理観をもち、教育公務員として、組織的な学校運営による教育課題の解決に励む教師

(1) 学力・体力の育成について

- ①中核的な概念の深い理解を基軸とし、知識及び技能と、思考力・判断力・表現力等の「縦・横の関係」を意識した単元構想を行う。児童が課題意識や自分なりの解決方法をもつ習慣を身に付けられるよう、日常の授業の充実を図る。考えや意見の交流を活発にし、児童主体となり探究的に学び合う学習過程を大事にしたカリキュラム・マネジメントに取り組む。そのために、授業者は週の指導計画に明確なねらいを記載し、児童の変容を記録する。
- ②対話的・協働的な授業を成立させ、自らの意見をもち、言葉で表現し伝え合う学習者を育成するために、考えるための技法、考えを文や図で書き表す機会を常にもち、学習成果を実感できる振り返りの設定、単元構成の工夫、身に付けた力を生かすカリキュラムをデザインする。
- ③育成する資質・能力を明確にし、知識・技能と思考力等を一体的に育成する指導と評価の充実を図る。基礎的・基本的な事項の定着を図る学習と教科横断的な学習を効果的に展開するために、各学年の単元配列表の活用、年間指導計画の修正を適宜行う。
- ④デジタル学習基盤を前提とし、情報活用能力を各教科等における探究的な学びを支える基盤として育成する。GIGAスクール構想第2期への更新に対応し、不確実で複雑と言われる時代を生きぬく力を育むよう、校務分掌にICT活用の組織を位置付ける。全教員で1人1台端末の効果的な活用と児童がデジタル社会で責任をもってテクノロジーを使い、デジタル社会に参画する技術や課題解決能力を身に付けられるよう、デジタル・シティズンシップ教育に取り組む。
- ⑤全国・都・区の各種調査結果を分析し、強みをさらに伸ばしたり弱点を克服したりする改善計画を策定し、指導にあたる。日常の指導における重点化や個別の指導により伸長を図る。
- ⑥特別活動等において、その趣旨を生かし、集団活動を通して自主的・実践的な態度を育てる。学級活動を充実させ、自主的・自律的にクラスについて児童が考え運営できるようにし、問題は話し合って解決できるようにする力を付け、モラルを高める。
- ⑦全体指導と個に応じた指導の工夫を図り、どの子にも学ぶ喜びを実現する。質の高い授業を目指した教科分担制や交換授業等を実施し、多様な大人と関わる機会の創出や多面的な児童理解につなげる。

(2) 健全な心身の育成について

- ①日常の全教育活動の中で、人権教育の充実を図る。いじめや暴力など心身を傷つける行為は許さない学校・学級風土を醸成する。いじめ対策委員会を毎月開催し「杉並区いじめ防止等に関する条例」に基づいた未然防止・対応力の向上に努める。
- ②基本的な生活習慣の確立に向けた指導について家庭と連携し、生活指導の充実を図る。返事・挨拶と礼儀、時間の管理、後始末の指導、相手意識をもつ「語先後礼」を実行する。
- ③心と心をつなぐ人間関係の形成を図り、教育相談を充実させる。問題行動等については児童・保護者との良好な関係構築を基に相談活動を行い、生活指導夕会・全体会で情報を共有する。教育相談コーディネー

ターを中心に未然防止、早期発見、組織的に問題解決に当たる。

- ④特別支援教育については、多様な背景や特性をもつ児童一人一人の可能性を引き出し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。校内組織の活性化や個別指導計画等記録の蓄積、関係機関との連携により支援機能を充実させる。特別支援教育コーディネーターの企画する研修により、多様な支援方法を理解し指導・対応の充実を図る。専門家を活用し、スクールカウンセラー、巡回指導教員、巡回心理士、教育支援チームとの連携を深め、個に応じた支援にあたる。
- ⑤危険・危機回避等の考え方と技能を身に付けるよう、年間計画に基づいた安全指導を実施する。指導内容は週の指導計画に記録し、安全教育の充実を図る。
- ⑥「道徳科」を核として道徳的価値の内面化や指導法の工夫など、道徳教育の充実を図る。道徳教育推進教師が計画的に教員研修を実施し、指導力の向上を図る。
- ⑦体育の授業や縄跳び・ペース走の取組をはじめ、保健指導、食育の推進など日常生活全般を通して、体力・健康の保持増進を図る。

(3) 地域と共に児童を育成する開かれた学校づくりについて

- ①「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、保護者・地域と協働した教育活動を推進する。学校運営協議会での協議内容・要望を受け止め検討し、教育活動の改善を図る。単元配列表によるカリキュラム・マネジメントを推進し、学校支援本部、学校教育コーディネーターによる教育活動への協働・支援を最大限に生かす。朝先生の時間を設定し、学級に地域の方々が日常的に関わる開かれた取組を継続する。
- ②教育活動に地域の教育力を積極的に取り入れるとともに、保護者・PTA組織との連携を図り、学習で身に付けた課題を解決する力やコミュニケーション能力を生かす場を設定する。児童が地域の一員であることを自覚し、自らも貢献しようとする意識を高める。
- ③幼児教育施設、中学校との連携を図る中で、学びの連続性を理解し指導に生かす。園児・児童・生徒の交流活動や保育者・教師の連携を工夫し、互惠性のある活動を計画する。年長児・1年生の期間を架け橋期と捉え、幼児教育による10の姿を生かしたスタートカリキュラムを編成し、学校教育となめらかに接続する。
- ④教育活動の様子は学校だより、ホームページへの学年・行事の様子を掲載するなど積極的に発信し、取組への理解と協力、学校教育への信頼を得る機会とする。

(4) 組織的な学校運営と全教職員による教育活動の推進について

- ①校務DXの推進により「余白」を創出し、その時間を児童理解・授業改善・教師の専門性向上に振り向ける。様々な職層を生かした業務遂行により、教職員のワークライフバランスを整える。心身ともに健康な教職員により、一人一人の持ち味を生かした協働する職能集団を形成する。働き方と探究的な授業への改善を校内研究として連動させ、教育の質を高める杉スパイラルを確立する。
- ②杉並研究学校事業のもと、校内研究は教師の「探究的な学び」による授業改善の実践、ICTスキルの向上をねらいとし、全教員参加で進める。主体的な学習者の育成を目指し、日常の学習活動においても探究と体験を重視し非認知能力を育む。幼保小連携、小中一貫教育の取組等、計画的な研究・研修を実施し、全教員が広い視野と系統的指導の見通しをもち、授業力を向上させ、児童の教育にあたる。
- ③全教職員がコスト意識をもち、各職種、分掌に応じた職務を適切に遂行する。校務支援システムやICT環境を活用し、効率的な授業準備・業務遂行に努める。タイムマネジメントを実行し、限りある時間・予算と求められる業務とその結果について可視化し、個人・分掌組織において改善を図る。
- ④服務事故ゼロを徹底するため、服務研修を実施する。机上や居室の整理整頓に常に努めるとともに、互いに声掛けを行い、教育公務員としての強い自覚を維持する。
- ⑤栄養士・調理室と連携を密にし、食物アレルギー対策の整備、給食指導上の共通理解の遵守徹底を図り、豊かで安全な食を確保する。

(5) 学習環境の整備について

- ①落ち着いて学習するのにふさわしい状況となるよう、事務室・主事室と連携した教室環境の整備、専門的指

導員による人的環境を整える。

- ②Ｉ人Ｉ台端末アプリケーションの活用や教材開発、指導計画に基づいた情報活用能力の伸長を図るとともに、個人情報の保護を徹底し、コンピューターリテラシー、情報社会に参画する態度を育成する。
- ③全学年におけるプログラミング教育の実施、AI ドリル、該当学年においては学習者用デジタル教科書を活用し、取組の状況を校内外に発信する。
- ④学校司書、司書教諭が連携し、読書・学習・情報センターの役割を担う学校図書館を整備する。図書委員会児童の活動、図書ボランティアの力も活用し、取組の充実を図る。

「歴史は古く、理想は新しい杉並第一小学校」

～大人も子供も、笑顔で学ぶ意欲にあふれる学校をともに創っていきましょう～